

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.199 / 2022 .NOV

(月1回発行)

仙台89ERSのゲームスポンサーとして会場を盛り上げました



ダンスパフォーマンスで会場を盛り上げたDANDANDANCE&SPORTS実行委員会

プロバスケットボールリーグB.LEAGUE B1・東地区に所属している仙台89ERSの第7節・川崎ブレイブサンダース戦が 11月27日(日)に仙台市太白区のゼビオアリーナ仙台で行われ、本学がゲームスポンサー「SPORTS FOR ALL 仙台大学デー」として協賛しました。

会場内に本学のブースを複数設置。本学の特徴ある学科による催しを提供しました。どなたでも参加できるeスポーツ体験コーナー(NBAゲーム)や子どもを対象とした子ども運動教育学科の学生による「おりがみメダル」制作コーナー、スポーツ栄養学科の管理栄養士が監修した「ナイナーズ弁当2022-23」の紹介ブース、仙台大学附属明成高校出身の八村塁選手(NBA)と山崎一渉選手(ラドフォード大学)、菅野ブルース選手(エルスワース・コミュニティカレッジ)の等身大パネル設置、また、ハーフタイムには学生によるダンスパフォーマンス*を披露し、会場を盛り上げました。

試合は仙台89ERSが4Qの逆転劇で勝利し、MVP賞のプレゼンターをクリケット女子日本代表の岩崎桜奈選手(体育3年)と鹿野あかり選手(職員)の2名が務めました。

*ダンスパフォーマンスは、令和5年2月18日(金)に大河原町えずこホールで開催する「DAN DAN DANCE & SPORTS 19th」でも披露されますので、そちらも是非、ご来場ください。



MVP賞のプレゼンターをクリケット女子日本代表の2名



大人気だった子ども運動教育学科の学生による「おりがみメダル」制作コーナー

目次

・ 仙台89ERSのゲームスポンサーとして会場を盛り上げました	1
・ 令和4年度修士論文研究計画発表会を開催しました ・ 戴准教授の「柔術狂時代」がサントリー学芸賞を受賞 ・ キャロウェイゴルフ株式会社様より、ゴルフ教材を寄附して頂きました	2
・ 令和4年度 地域防災人材育成プログラム ・ バドミントン部男子、東北リーグ10季ぶり準優勝	3
・ 女子クリケット国際大会「クリケット女子東アジアカップ2022 日本代表対香港代表戦」で本学から2名が出場	4
・ 21年ぶりに全日本インカレ勝利!! / 女子ハンドボール部 ・ 女子バレーボール部 / 東北地区体育大会準優勝!	5

学生の活躍や、取り組みなどを
ご存知でしたら広報課までお寄せ
ください。

Monthly Reportで紹介する他、
報道機関にも旬な話題を提供して
参ります。

本誌へのご意見・ご質問等が
ありましたら広報課までご一報く
ださい。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

令和4年度修士論文研究計画発表会を開催しました

今年度2年コースに入学した院生対象の、修士論文研究計画発表会を10月28日（金）に開催しました。

先日の学位論文予備審査会と同様に、教職員、院生、学生と希望者が傍聴できる会となっており、発表後のフリーディスカッションでは、予定時間を過ぎるほど、活発に意見交換がなされ、アドバイスをしっかりとメモする姿も見受けられました。

—発表した院生の感想—

今回発表してみて、自分なりにまとめてきたつもりではいたものの、漠然としていたところがあったと気づかされました。フリーディスカッションでは、研究の進め方や、発表資料のまとめ方等、具体的なアドバイスをいただき、今後の研究に活かしていきたいと思いました。

発表した院生の多くは、これから本格的に実験や実地調査等が始まります。今回いただいた意見を活かしつつ、1年後の学位論文予備審査会に向けて、限りある時間を有効的に使い、計画的に研究を進めていくことになります。
＜大学院事務課＞



藪准教授の「柔術狂時代」がサントリー学芸賞を受賞

この度、藪耕太郎准教授が第44回サントリー学芸賞を受賞しました。

同賞は毎年、前年1月以降に出版された著作物を対象に選考し、広く社会と文化を考える独創的で優れた研究、評論活動をされた方を顕彰しています。

また「政治・経済」「芸術・文学」「社会・風俗」「思想・歴史」の4部門に分かれており、藪准教授の『柔術狂時代—20世紀初頭アメリカにおける柔術ブームとその周辺』（朝日新聞出版）は「社会・風俗」部門での受賞となりました。

藪耕太郎准教授のコメント

武道の海外伝播史を、エスノセントリズムの陥穽から救い出し、文化の越境・交流・変容を巡る歴史的ダイナミズムに身を委ねて描く。その試みに評価を頂いた喜びと感謝に胸がいっぱいです。研究、出版、選考に関わる全ての皆様に、心よりお礼を申し上げます。



キャロウェイゴルフ株式会社様より、ゴルフ教材を寄付して頂きました

一般社団法人大学ゴルフ授業研究会様からご紹介を頂き、昨年12月にキャロウェイゴルフ株式会社様からゴルフ教材5セットの寄付を頂きました。

今年度の授業より活用させていただいております。ご厚意に、深く御礼申し上げます。



令和4年度 地域防災人材育成プログラム

10月29日（土）、30日（日）に、地域防災人材育成プログラム（主催：仙台大学、共催：尚絅学院大学、後援：名取市、柴田町）を開催しました。

1日目は、本学が連携協定を結んでいる尚絅学院大学とニュージーランドのカンタベリー大学の学生による3大学でのワークショップを行い、それぞれ災害ボランティアの活動の取組みについて情報交換を行いました。

本学からは、2011年の東日本大震災の際に避難所等でエコノミークラス症候群予防をお目的に行った健康体操指導と、コミュニティを作るために実施した茶話会の取組みを紹介しました。

カンタベリー大学からは、東日本大震災と同年2月22日にニュージーランド南島クライストチャーチ近くで発生したM6.3の大地震の際の、ボランティア等の活動が動画とあわせて紹介されました。

尚絅学院大からは、ボランティアチームTASKI（たすき）の活動として、閑上地区での伝承活動等について報告されたほか、新型コロナウイルスの拡大により、3年間の活動に制限があったため、ボランティア活動が十分にできておらず、活動経験を持つ学生がいないとの報告がなされました。

午後からは、演習形式で災害が発生する前から、発生後にできる活動について、学生同士で意見交換が行われ、盛会裏に終了しました。

また、2日目は柴田町民など6名にご参加いただき、佐藤修教授（スポーツ情報マスメディア学科長）による「自然災害と報道」と題した講演の他、山内明樹教授が地域防災についてゲームを通して考える演習、藤本晋也講師が、国土交通省が展開する「浸水ナビ」を活用して自身が住まう地区の防災について考える演習をそれぞれ実施しました。

参加者からは「貴重な経験談を聞くことができ、災害前の備えの必要性を再認識した」「今日学んだことを地域に戻って伝えたい」などといった声が寄せられました。

このプログラムは、今後、起こり得る災害に備え、地域で活躍できる人材を育成することを目的に、昨年度から実施しているものです。



バドミントン部男子、東北リーグ10季ぶり準優勝

11月6・7日（日）、仙台市・宮城野体育館にて東北学生バドミントン秋季リーグ戦が開催され、男子が2016年春以来10季振りに準優勝、女子も春に続いて3位となりました。

結果は以下の通り

男子（2勝1敗・準優勝）

仙台大学 3-1 東北学院大学

仙台大学 0-3 東日本国際大学

仙台大学 3-1 東北福祉大学

女子（1勝2敗・3位）

仙台大学 1-3 東日本国際大学

仙台大学 1-3 東北福祉大学

仙台大学 3-0 東北学院大学



男子は4年生が最後のリーグ戦で躍動しました。

初戦のトップシングルスに立った中島光人（健康福祉4年）が先制ポイントを挙げ、リーグ戦全体の流れを作りました。

エースの成田行磯（体育4年）は、4勝を挙げてチームの2勝に貢献しました。

成田と組んだ高山侑也（体育2年）、シングルス初出場の前田望夢（体育2年）もリーグ戦初勝利を挙げて来年度以降に期待が持てる結果となりました。

女子はエースの齋藤梓（スポーツ栄養1年）がシングルス3戦全勝と奮闘しました。

齋藤の次のポイントが課題となりますが、主将の吉田亜由美（体育3年）が春の3勝に続き、今回も1勝を挙げ、中村彩乃（スポーツ栄養3年）もリーグ戦初勝利を挙げました。

メンバーが残る来年度に上位進出を狙います。

今年度の試合も来月の新人戦を残すのみとなりました。

引き続き精進してまいります。

<バドミントン部>

女子クリケット国際大会「クリケット女子東アジアカップ2022 日本代表対香港代表戦」で本学から2名が出場

10月27日（木）から10月30日（日）に、大阪府貝塚市の市立ドローン・クリケットフィールドで、国際大会「クリケット女子東アジアカップ2022 日本代表対香港代表戦」が開催され、本学から岩崎桜奈選手(体育3年)と鹿野あかり選手(職員)の2名が日本代表選手として出場しました。

開催前夜には、開催地の貝塚市役所にてウェルカムパーティーが開催され、貝塚市長はじめ来賓の方々から日本・香港の両チームに激励の言葉がありました。

4日間の試合で日本代表は香港代表に4戦全敗してしまいましたが、3戦目、4戦目は善戦しました。特に4戦目はスコアが101対101と同点で終わり、延長戦の結果の惜敗でした。



岩崎選手は、国際大会初出場ではありましたが、初戦からレギュラーとして出場してくれました。

鹿野選手は既に日本代表メンバーとして海外での試合経験がある事、チーム内におけるレギュラーを確保している事も合わせ、堂々たるプレーを展開していました。守備ではキーパーというキャッチャーのポジションで的確な判断と堅守で大活躍しました。さらに、打撃では、3日目の試合で1試合に一人の選手が50ラン以上の得点を獲得するハーフセンチュリーを達成し、会場全体に大きな感動を巻き起こしてくれました。これは、チームジャパンにとっても本学のクリケット部にとっても歴史に残る快挙でした。

日本代表選手たちは、試合の合間に香港代表の選手たちと大阪を観光し、国際交流も十分に楽しめたようです。

イギリス発祥のクリケットは日本では人気・知名度とも高いとは言えないスポーツですが、世界的にはインドをはじめ旧英連邦諸国でサッカーやバスケットボールなどと並ぶ人気のスポーツです。

本学は日本では数少ないクリケット部がある大学です。一緒に世界を目指して取り組んでみませんか？



鹿野選手コメント

4日間、応援していただきありがとうございます。悔しい結果となりましたが、3年ぶりの国際大会が日本で開催されて私自身とても嬉しかったです。4戦4敗とチームとして納得いく結果にはなりませんが、来年にはW杯予選があるのでそれに向けてまた1から頑張っていきたいと思います。

仙台大学としても日本代表選手を1人でも多く輩出できるよう指導にも努めて参ります。

岩崎選手コメント

昨年は新型コロナウイルスの影響で国際大会が中止となり悔しい年となりましたが、今年は国際大会が日本で開催されてとても嬉しく思いました。初めての国際大会で緊張ばかりしてしまい、自分のプレーが発揮出来ず悔しい思いもありますが、レベルの高い選手とプレーできたことが嬉しく、そして楽しく試合ができ貴重な体験をさせていただきました。来年は、もっとレベルアップし、日本を代表する選手になれるよう練習に励んでいきたいです。



21年ぶりに全日本インカレ勝利！！／女子ハンドボール部

11月3日に愛知県（豊田市、刈谷市、岡崎市）にて開催された、高松宮記念杯男子第65回・女子第58回令和4年度全日本学生ハンドボール選手権大会において、女子ハンドボール部が2001年以来、21年ぶりに勝利し、ベスト16への進出を果たしました。

対戦相手の広島経済大学は、中四国ブロック2位のチームであり、実力は拮抗していましたが、ゴールキーパーの堺 夏美（体育4年）の堅守から、山崎 萌華（体育4年）が速攻を決めるなど、徐々にリードを広げることができました。

全日本学生ハンドボール選手権大会は学生最高峰の大会として位置づけられており、国内トップの男女それぞれ予選を経て出場した32大学で競うトーナメント戦です。

<女子ハンドボール部>



21年ぶりの勝利を挙げた女子ハンドボール部員

女子バレーボール部／東北地区体育大会準優勝！

11月5日（土）、6日（日）に本学第5体育館で3年ぶりに開催された2022年度東北地区体育大会バレーボール競技の部において、準優勝を納めました。

結果は以下の通り

<1日目：グループ戦>

仙台大学 2 (25-11, 25-9) 0 東北大学

仙台大学 2 (25-17, 25-19) 0 修紅短期大学

<2日目：トーナメント戦>

準決勝 仙台大学 2 (25-10, 25-12) 0 東北学院大学

決勝 福島大学 2 (25-20, 30-28) 0 仙台大学



本大会で4年生が引退となり、今シーズンが終了しました。今後も応援よろしくお願いします。

<女子バレーボール部>

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 55

助手 高野 順平

10月から11月にかけては、高校スポーツも多くの大会が行われる時期で、川平キャンパスで勤務するアスレティックトレーナーも仙台大学附属明成高校の試合帯同を行いました。3年生にとっては、高校生活最後となる大会もあり、今年の3年生は入学当初から新型コロナの影響を一番受けた学年だったと思います。最近では、新型コロナの影響で学校自体が休校となることはなくなりましたが、部活動が数日中止という事もあり、まだまだコンディションをキープするのが難しい状況は続いております。それに加え、3年生が抜けた後は1・2年生だけのチームになり、チーム内での編成が変わったり、新人戦などの試合では以前より出場時間が長くなったりと、体への負担が以前より増える生徒も多く出てくる時期でもあります。川平ATルームでは仙台大学附属明成高校の特定研究指定部活動を対象に、定期的に傷害予防講習会を実施しており、最近行った講習会では、前期に報告があったスポーツ傷害の傾向を確認したり、4月に行った講習会で話した毎日のケアなどについて復習を行い、新チームでの新たな傷害予防に対する意識付けを行っています。



～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探索することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくること」であり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画